

Vol.
23

Shumei International

NEWSLETTER



Shumei International is dedicated to improving the human community by restoring the environment, fostering a deep appreciation of beauty and the arts and cultivating leadership among the next generation.

The organization was founded on the philosophy of Mokichi Okada, who taught that cultivating respect for nature and appreciation of the inherent beauty in the natural world will uplift human society and enable a truly balanced and sustainable world.

Shumei International has established programs around the world with a focus on Natural Agriculture.

Shumei International

NEWSLETTER

Vol.23



【表紙】

2023年から新たに秀明自然農法を始めた
ザンビア東部州シンダ地区の圃場と農民たち

2024年歴史的な干ばつの被害のため、プロ
ジェクト発足時より自家採種してきた南部州の
種が全滅したが、東部州のみ幸い降雨があり自然
農法の在来種が守られた。



秀明インターナショナルは、1.国際協力 2.環境問題への
取り組み 3.優れた芸術による人心の向上の3点を基本的
なプログラムとして実践します。この実践により、個々の人
間性、精神性の向上を促し、社会へ新しい人生観、価値観
を提唱したいと考えています。そして、私たち同様の目的を
持つ世界中の人たち、団体と協力し合い、世界平和に貢
献していくことを目指しています。



Special Topics

3 ORFC2025「精神性を基盤とした食と農の未来へ」 土と作物の生命力を生かし、人々の生き方を伝える秀明自然農法

4 ORFC レポート 秀明インターナショナル 国連担当理事 アリス・カニングハム

5 ORFC セッション

11 ORFC Q&A

12 初のブース出展

13 ORFCにおけるShumeiの活動ダイジェスト

14 <プレイベント> Listening to the Land -大地の声を聴く

16 秀明自然農法で築き上げた「絆」

21 Green Life Food Festa 2024



「精神性を基盤とした食と農の未来へ」

土と作物の生命力を生かし、人々の生き方を伝える秀明自然農法

本会議場：オックスフォード市庁舎のメインホール

2025 年 1 月 9 日、10 日の 2 日間にわたり、イギリス・オックスフォードにて第 16 回オックスフォード・リアル・ファーマーミング・カンファレンス（以下 ORFC）が開催されました。有機農業の会議としては世界最大級の会議で、本年は会議場とオンライン合わせて約 3500 名が参加し、有機農業と持続可能な食の未来に向けての話し合いが行われました。農家、シェフ、科学者、そして政策決定者の方々など多様な分野の参加者が一堂に会して、互いの取り組みから学びつながり合う、希望と活気に溢れた会議となりました。

本年が 7 回目の参加となる秀明インターナショナル（以下 Shumei）は、会議セッション「生命力を育む種・土・植物」の開催と活動紹介のブース出展を行い、秀明自然農法の活動とその根底にある精神性を発信しました。



オックスフォードの街並み



ORFCレポート

アリス・カニングハム



アリス・カニングハム

秀明インターナショナル
国連担当理事

今年も Shumei は1月9日、10日にイギリス、オックスフォードで行われた ORFC に参加しました。この会議への参加は今年で7回目となります。今年は初めてブースを設けたことで Shumei のフィロソフィーの三つの柱である、自然農法、美による感化、そしてスピリチュアリティ全てを紹介させていただきました。特にこれら三つの活動は一体であり、つながっていることを強調させていただきました。今までも自然農法を単なる農業として取り上げるのではなく、自然と調和した生き方であると訴えてきましたが、そのためには本物の美を理解する感性と、精神性を基盤とした意識の向上が不可欠です。私たちは本来、スピリチュアルなエネルギーを感じ取り、優れた美の感性を持ち、自然と共生してきました。しかし今それらの感性が薄れ、物質的向上のみを求めることによって、私たちの生活は反自然的なものとなってきています。特に食に関しては、利便性やコストパフォーマンスが追求され、安価で提供される代わりに、私たちの健康が損なわれる食べ物で溢れています。そこで今回私たちは、作物そして食べ物の生命力にフォーカスしたセッションを行いました。作物本来の力、エネルギーを引き出すことで私たちの体も活性化され、健康になります。栄養素の種類や数字だけを追うのではなく、栄養素そのものの質を高めることの大切さを訴えました。予想以上に大きな反響を頂き、食べ物に対する関心がとても高まっていることを感じました。収穫量ではなく作物の質を高めることに重きを置くことで、私たちは心身共に健康になれるのは明らかです。多くの人々が精神的な病気に悩まされているのも、食の質によるものだと思います。必要量のカロリーを摂取しても、その内容、質が衰えていれば、それは決して健全な身体をつくりません。食べ物にも数字には表れないエネルギーが存在するのではないのでしょうか。意識レベルが人や作物に与える影響はとても大きいということを多くの人々が感じ始めています。私たちが生きていくために、食べることは必要不可欠です。活力を高めるためにも生命力の高い作物を食べることが重要です。おいしいものを食べることはただ空腹を満た

すだけではなく、心身共に満たされます。そしてそのおいしいという感覚は五感を通して私たちが体験するものです。ただそこにはもう一つの要素、見えないプラスアルファがあるのです。愛情や感謝の心が食べ物をより美しく、おいしくします。そして愛情や感謝に溢れた食べ物を感謝で食べることで私たちの身体はますます活性化します。愛情や感謝の循環です。心が通い合う環境は生態系そのものをより健全なものにします。生命力の高い食べ物を生産することで、世界の食糧システムをより健全なものに移行できるはずです。そのためにも精神性を農業の世界に取り入れることがますます求められていくと思います。多くの参加者が精神面を抜きにして健全な社会を築くことは不可能なのだと理解し始めていることが今回の会議に参加して何よりも感じたことです。精神性、スピリチュアリティが大きな渦のように2日間の会議の原動力となり、より共感力を高めたと感じます。間違いなくこれからの農業の方向性に多大な影響を与える力が生まれてきていると思います。スピリチュアリティ、そして自然との調和を理念の根幹とする秀明自然農法は、今後健全な社会を築く上でとても大きな役割を担うと感じます。精神性を育むことで物質文化と精神文化のバランスを整え、より調和のとれた世界を築くために引き続き活動していきたいと思っています。





セッション「生命力を育む種・土・植物」

会議1日目である1月9日に「生命力を育む種・土・植物」というテーマでShumeiのセッションが行われました。このセッションでは、秀明自然農法の根本的な在り方が紹介され、農業の実践、食育活動、そして秀明自然農法の実効性の証明という三つの視点から講演者がそれぞれの活動について発表されました。秀明自然農法の意義

は、自然と調和するための精神的な実践として土や植物を尊重し愛することを通じ、種、土、植物の生命力を引き出すことにあります。そしていずれは農業と食の実践が、人間中心の考え方から自然を尊重し自然から学ぶという考え方や生き方への変化につながっていくことが話されました。



講演者プロフィール

アリス・カニングハム

秀明インターナショナル
国連担当理事

今橋伸也

秀明自然農法実施者

マシュー・アダムス

食物栄養研究家

ヤナ・ロック

料理研究家・建築家

ベン・ラスキン (司会)

英国土壌協会アグロフォレストリー部長

秀明自然農法の精神性と実践

今橋伸也 まず、秀明自然農法とは何かについてお話しさせていただきます。自然農法とは、1930年代に岡田茂吉師によって日本で始められた生態系と調和する農業のアプローチ(手法)で、現在では世界20カ国以上で実践されています。自然農法の原則は、自然順応・自然尊重に他なりません。私たちは、土は作物を育てるのに完璧であると考えています。自然農法の三つの要素は、肥料や農薬を使わない純粋な土壌、次に自家採種された純粋な種、そして農家の農作物への愛に満ちた純粋な心とそれを表す行動です。

次に、イギリスのイエイツベリー園場のケールについてお話しします。2018年、私は自然農法のケールの種をまきましたが、カタツムリに小さな苗を全て食べられてしまいました。ですがそこで私はカタツムリに感謝しました。残念ながら自家採種していた自然農法の種を失ってしまったので、ケールの種を有機農産店で購入し、800株のケールの苗を植えま

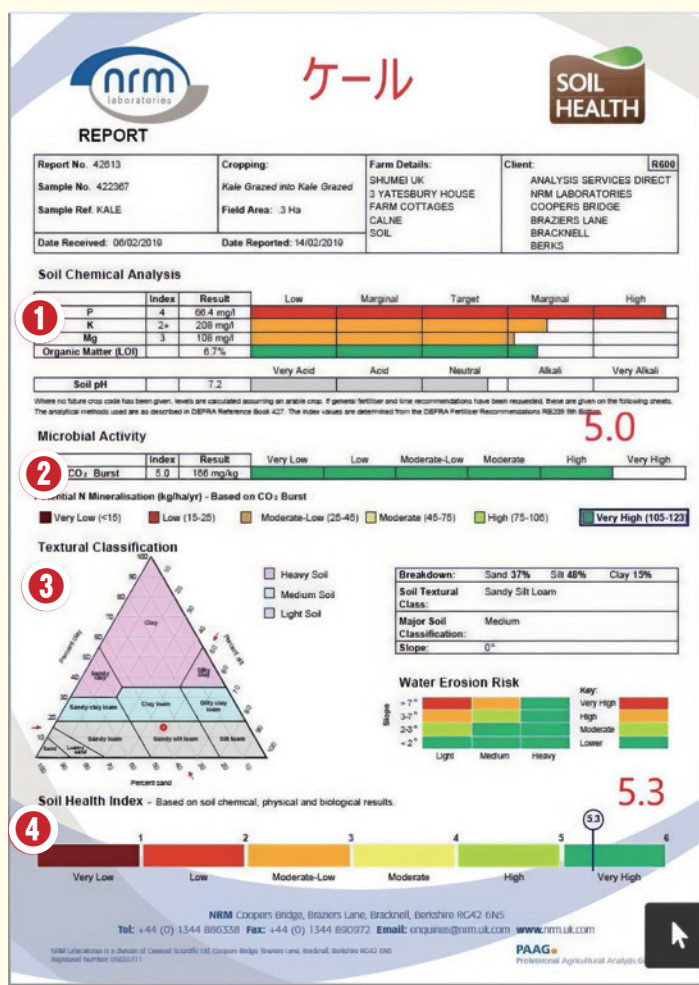
した。するとこの8年間、一度も病気にかかったことのないケールが病気にかかりました。幸か不幸か、この時期に多くの人が農場を訪れ、ほとんどの人からケールは死んでしまうだろうと言われました。しかし私はケールの栽培を諦めなかったため、土に触れ、「土さん、ケールを助けてください」と語りかけました。そしてケールにも、「ケールさん、育ててくれてありがとう。病気で苦しんでいるのは分かるけれど、病気は敵ではありません。病気のおかげで、君はより強く健康になります。だから病気に感謝してください」と話しかけました。それからさらに1週間後、病気は収まらず、虫までやってきたので「虫さん、来てくれてありがとう。君たちのおかげでケールは強くなります。好きなだけここにいてください」と、私はケールと病気と虫に毎日話しかけました。それからさらに1週間後、病気は止まり、虫も突然半分いなくなり、その3日後には全ての虫がいなくなりました。ケールは回復し始め、結果たくさんのケールを収穫することができました。その後、土壌の健康状態を調べるため、土のサンプルを研究所に送りました。ご覧のように



病気になったケール（2018年）



元気になって収穫できた同年のケール



連作でケールの栽培を行っている土の試験結果（2019年）

① 土壌分析

② 微生物の働き

③ 土性分類

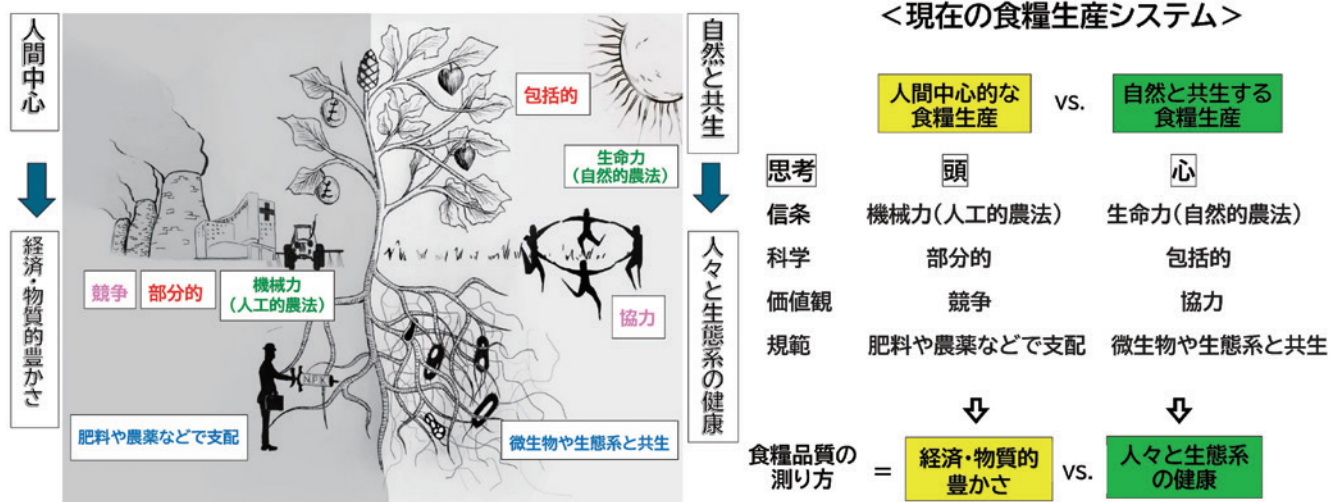
④ 土の健康状態

*注：ケールを育てている土壌の検査の結果。②微生物の働きは6段階中の5、④土の健康状態も6段階中5.3と非常に高い数値を示しています。土壌に肥料を入れず、さらに連作をすると土の栄養素と活力が減少するというのが農業の通説ですが、無肥料・無農薬で8年間の連作の結果、土と微生物の健康状態は高く保たれていることが分かります。

（上図 土の試験結果①参照）、赤・オレンジ・緑のグラフがP・K・Mg有機物を示し、土壌の栄養状態を示しています。このように、9年間自然農法を実践してきた結果、土壌の栄養状態は十分であることが分かります。そして微生物の働き(②)は6段階中5.0と非常に高いレベルです。このデータから、自然農法を実践し続けることで土の健康状態はより良くなることが分かります。

目に見える自然、木や山や植物や土などの背後には精神的な基盤があるという自然の精神的な側面を認識する

ことで、自然への尊敬が生まれ、私たちの考え方や行動に変化が生まれます。土や植物への敬意と愛が、自然の純粋さを尊重する方法と組み合わせることで、本来持っている生命力が引き出されるのだと信じています。23年間にわたる自然農法での精神的な経験を通して、私は土と作物にも意識があることを知りました。最後に岡田茂吉師の言葉を共有し私の発表のまとめといたします。『すべては自然が教えている』。ありがとうございました。



ディープ・エコロジーのイメージ図

自然と共生して育った質の高い作物を科学的に証明

マシュー・アダムス 私が感化された「ディープ・エコロジー」の考え方について少し説明します。この絵（上図）は、異なる二つの世界観を表しています。左側は画一的な農業で、自然を支配するという人間中心の世界観に基づいて作物が育てられている様子です。現在主流となっている作物の生育の仕方は、自然環境を人間がコントロールするという考え方によるもので、その結果として環境汚染や環境破壊が起きました。私たちは皆、普段の行動を通して自分の世界観を作り上げていきます。もし私たちが、人間の利益のためなら自然を傷つけても構わないと考えるなら、その考え方は次の世代、そのまた次の世代へと伝わり、環境破壊が当たり前の行動となってしまいます。人間の利益のためであれば、自然環境を傷つけても構わないということが、人間中心の世界観なのです。その中で右側のイメージに表されているディープ・エコロジーは、人間中心でない世界観を実現するために、代替的な世界観を提案しています。例えば、先住民にとって人間は自然の一部であり、食糧生産においても人間と自然を分け隔てることなく、共生しているのです。右側では、作物と共に愛を育てているのが分かるでしょう。私たちが協力することを学び、土と協力することで共生の効果を高めているのです。

私はこれまで、食品の品質を測定するためにブリックス測定と味覚テストの比較試験を行ってきました。ブリックス測定とは、作物の果汁による光の反射によって栄養素を効果的に測定するものです。ブリックス値が高ければ高いほど、果汁が濃く、植

物が形成する基本的な糖分、炭水化物、水、炭素が多く含まれ、栄養価が高いことを示します。そして、植物が土壌の微生物と共生することでこれらの栄養素は増加します。

味覚テストは、栄養素の多様性を測るために取り入れたもので、水分量、甘味、風味、後味の四つの要素を測ります。人間には生来、自然と共生して育った作物の高い栄養素を味の良さとして感じる能力があると私は考えています。野生の動物や植物は病気になりにくいのですが、それは微生物のおかげです。腸内の微生物が、動物が食べた物に反応して何を食べるべきかの信号を脳に送り、食べる物を選択します。これは野生で行われている自然なプロセスであり、人間にも同じ能力があるはずですが、私たちはそれを失ってしまいました。私たちは、それを取り戻す必要があるのです。そこで、ブリックス測定と味覚テストの比較試験のプロジェクトを始めました。



マシュー・アダムスさん

2024年に今橋さんが育てたトマトのブリックス測定をしたところ、これまでテストしたどのトマトよりもブリックス値が高く、また味も素晴らしく感動しました。そして、この今橋さんのトマトを有機農家の集まりに持って行き、味覚テストを行いました。結果の値をデータベースに入力し始めると、これまで入力したあらゆるデータよりも高い数値が出ました。食べ物の品質データベースがあれば、食品の品質を明らかにすることができます。食べ物の本当の品質は、その生育過程においてどのように自然と調和したかに影響されていると考えます。

私は、これまでの実験を通して作物の品質基準の策定に関する構想を持ち始めました。現在は、作物の収量のみが基準

にされています。遺伝子組み換えや水耕栽培などの技術を使って、収量は多くても品質が伴わない食品を生産し続け、私たちは地球と人間の健康を害しています。

私たちは今、人間の内面性に関する開発目標を提案する段階にきています。持続可能な開発を実現するためには、私たちの人間性の向上を促す必要があります。その先駆けが、国連開発計画の「コンシャス・フード・システムズ・アライアンス（以下CoFSA）」です。私たちが作物の品質基準を開発することができれば、自然と調和した方法で育てられた最高品質の作物の供給を世界規模でサポートし、地球と人間の健康を回復させていくことができます。



イギリスのイエイツベリー園場を見学するマシューさん（右奥）



今橋さんの育てたトマト



エネルギーテスト Energy Test

作物の生命力を測る方法として今橋伸也さんが実践しているのが「エネルギーテスト」。

会場で実際に聴衆の方々から4人のボランティアを募集しこの実験を行いました。

参加者の皆さんは自然農法の種のパワー、生命力に感動されていました。

1 まずは市販の種を参加者の手のひらにのせます。

今橋さんが重心をかけると・・・

参加者は簡単に倒れてしまいました。

足をしっかりとそろえて立ち、
倒されないように頑張ってください！



2 次に自然農法の種を手のひらにのせ、 今橋さんが力いっぱい重心をかけると・・・

皆さんの体はビクリともしませんでしたね！

テストの結果から

たとえ小さな種でも自然農法の種は、
持っただけでも体に与えるエネルギーは強く、
自然農法で育てられた作物を食べることで
さらに大きなエネルギーが得られます。
自然農法で育てられた純粋な食べ物は
私たちの体を活性化させるということです。





ヤナ・ロックさんは、料理研究家であり建築家でもあるという多様な経歴とスキルを生かして、都市に住む人々が健康的な食と自然を尊重するライフスタイルの重要性に気付くきっかけとなる取り組みを行っています

<プロジェクトの例>

イギリスにおけるヤナ・ロックの取り組み

ヤナ・ロック イギリス王立料理芸術学院と一緒にしているプロジェクトで、私は1年に2クラスずつ、4つの料理ワークショップを西イングランドの小学校で行っています。最初のワークショップは味覚と感覚についてで、塩味、甘味、苦味、うま味、酸味など、子どもたちにさまざまな味覚について教えています。2回目のワークショップでは地元の食材を使って料理を作るのですが、いつも今橋さんの圃場から食材を調達しています。

私は毎年6月にコミュニティーガーデンで食の祝祭を開催していて Shumei からは今橋さんが来ます。私たちは秀明自然農法でどのように野菜が育てられているかを参加者に紹介しています。季節の農作物を紹介し、私たちの行ってきた仕事についても話します。このイベントは地域の人たちと関わり、健康的な食べ物がどのように私たちに変化を与えてくれるのかを説明する重要な機会となっています。



ヤナさんの食育のワークショップの様子

ヤナさんのプロジェクトはイギリスにおける例ですが、Shumei は、日本各地においても消費者が圃場を訪れて土に触れ、生産者と交流する活動や小中学校における秀明自然農法の紹介と食育活動などがさまざまな協力者と連携して行われています



愛と感謝のサイクルが作物にも伝わる

質問 もし植物を育てているときに、愛情を注いで世話をすることで植物の生命力が増すのであれば、感謝の気持ちをもって食べ物を頂くことで、食べ物の生命力やエネルギーも増すのではないのでしょうか？

アリス・カニングハム 私たちは感謝のサイクルがとても重要だと思っています。農家が愛情をかけて作物をつくることは本当に大切です。それと同時に農産物を受け取った人は感謝して食べることで、その感謝は農産物に伝わります。感謝の循環は単に食べた人の健康や幸福に影響を与えるだけでなく、作物そのものにも影響を与えます。私がある自然農法の農場を訪れた時に聞いた話ですが、ナスを育てていた夫婦が収穫時に口論になり、その時に収穫したナスはとても苦い味がしたそうです。けれども、その夫婦はナスにネガティブな感情やエネルギーを与えていたことを申し訳なく思い、「私たちはあなたを愛しています。怒りの感情をあなたに与える必要はありませんでした」とナスに謝ったそうです。するとその後と同じ圃場の別の畝から採れたナスはとても甘かったそうです。

私たちは、植物や作物にも意識があると信じていて、私たちの愛と感謝は私たち人間だけではなく、作物にもポジティブな影響を与えようと考えます。

土と作物を信じる

質問 秀明自然農法の三つの要素の一つは純粋な土壌であるとおっしゃいましたが、もし土壌が純粋でなく、最良の状態でないとしたら、土を助けるために何ができるのでしょうか？何か具体的な方法があるのでしょうか？

今橋 私は5箇所の農場で自然農法を経験しました。ある農場は20年間化学肥料を使い、ある農場は動物由来の堆肥を使っていました。私は、どんな土も美しいと思います。悪い土というものはありません。土を清浄にするためには、堆肥も化学肥料も使わない自然農法を始め、種を採り、土に感謝します。たとえ1年目の野菜がうまく育たなかったとしても、私たちのために野菜を作ってくれる土に感謝します。「土さん、こんな状況でも5つのミニトマトをつけてくれてありがとう」と。そうすれば、土が元気になって、美しい野菜ができると信じています。

ベン・ラスキン 土に話しかける実践的なレッスンですね。私が初めて今橋さんに会った時、私たちの農業のやり方の違いについての議論になるのではないかと思います。しかし、そこで私が今橋さんから学んだのは、私たちはほんの少し違う方法を用いているということです。彼ら（秀明自然農法生産者）は土とコミュニケーションをしていて、非常に親密なつながりがあり、だからこそ、この方法がうまくいくのです。私たち全員がこのつながりを持っています。これは今橋さんが意識して土を癒やし、それによって何が起きているかを理解しているということです。

アリス 私たちはいつも「土の力を信じる」ことが秀明自然農法の根本理念とお伝えしています。今橋さんが話したように、土そのものがエネルギーを取り戻す方法を知っていて、私たちは土に何かを入れる必要は全くないのです。私たちは基本的に愛情を注ぎ、土を励ますために「私たちはあなたを愛しています」と伝えます。元々悪い人はいないように悪い土というものはありません。でも私たちも病気になったり、調子が悪くなったりすることがあるでしょう。それは土にとっても同じことです。土壌を励ましてあげれば、土壌は自力でエネルギーを取り戻すことができます。

ヤナ 私はアイルランドで、ハイバンクという果樹園に行きました。彼らは両親から農場を引き継いだのですが、収穫量や果樹園の状況は非常に厳しいものでした。彼らは Shumei について知り農場を秀明自然農法に転換しました。8年から10年のうちに彼らの果樹園は想像していたよりもずっとうまくいくようになりました。農場のりんごの木たちを信じて、自然農法への転換を実現させた彼らの信念にとっても感銘を受けました。

<セッションを終えて>

セッションでは講演者がそれぞれの立場から、農場の実践、科学的な証明、そして生産者と消費者をつなぐ食育の視点で秀明自然農法の経験が共有されました。質疑応答では、秀明自然農法の自然を尊重し感謝する生き方を、農業をしていなくてもどのように日常生活の中に取り入れていけるかという話し合いもされ、秀明自然農法のアプローチが多面的に共有されました。



初のブース出展



本会場であるオックスフォード市庁舎のメインホールで会議中の2日間にわたり、活動紹介ブースを出展しました。100団体以上が会議に参加する中でブース出展をしたのは17団体、さらに本会場では4～5団体程度でShumeiはその中の一団体として取り組みを参加者に紹介しました。

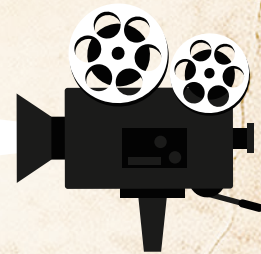
今回がShumeiにとって初めてのブース出展となりました。Shumeiの活動を紹介するパンフレットや自然農法に関する書籍、加工品の販売を行い、秀明自然農法の活動を起点として、Shumeiの精神性の根幹である、美しいものを求める心、自然から学び、自然と調和する生き方をブースを訪れた一人ひとりの参加者・出展者の方々と共有することができました。多くの方々が、秀明自然農法の根本理念である「自然順応・自然尊重」の考え方に大変共感され、土や作物にも意識があり、生産者の作物に対する感謝と愛がとても重要であるという考え方にもうなずかれていました。

過去の会議を振り返るとShumeiは、ザンビア自然農法開発計画（以下 NADPZ）代表バーバラ・ハチプカ・バンダさん

のスピーチに始まり、Shumeiのアリス・カニングハムのスピーチ、オープニングにて秀明太鼓の演奏（3回）、そして秀明自然農法の自家採種に関するセッションなどを通してさまざまな形で発信を行ってまいりました。Shumeiは、世界各地での農業の実践と食育、そして芸術イベントなど多岐にわたる活動を展開していますが、その根本にある精神性は共通しています。それは、自然への尊敬と深いつながりの重要性、美しいものに触れること、そして人々の温かい心と心のつながりを通して一人ひとりの心に平穏をもたらし、人々の意識を高めていくことです。ブースを訪れる参加者の中には、秀明自然農法の冊子を見て「とても美しいですね」と目を輝かせて種や野菜の写真を眺める方、自然農法が単なる農法ではなく自然を尊重する生き方であり、今の世界にはそのような生き方がより必要であることに共感される方が多くいらっしゃり、たくさんのつながりと会話が生まれました。これから、これまで以上に同じ志を持つ方々と手を取り合って、美しく自然と調和した世界を作っていく未来への兆しを感じる2日間となりました。



ORFCにおける Shumeiの活動ダイジェスト



TIMELINE



2019

ザンビアプロジェクト について発表

NADPZの代表バーバラ・ハチブカ・バンダさんが、本会場でShumeiの支援によるザンビアプロジェクトを紹介。彼女は秀明自然農法が持続可能で、飢餓に苦しむ人々の生活を変えた意義深い取り組みであること、そして農業が世界を変える“生きる糧”であり、原点に立ち返ることの重要性について力強く語った。

2020

総会にてスピーチ“Harmony with Nature” 本会場にて初の太鼓演奏

総会では、自然とのつながりを深めるため、パフォーマンスではなく“祈り”である秀明太鼓の演奏が披露され、その後アリス・カニングハムが“Harmony with Nature（自然との調和）”をテーマに精神性、美による感化、自然と調和した生き方の重要性について語った。

2021

コロナ禍によりオンラインにてセッションに参加 日本から太鼓演奏をライブ配信

コロナ禍の影響でオンライン開催となったため、Shumeiの活動拠点である滋賀県から“生物多様性の回復と種の保存”をテーマに、秀明自然農法の実践が生態系を豊かにし、地球環境にも良い影響を与えることについてセッションを行った。また、秀明太鼓の演奏をライブ配信し、世界中の視聴者から大きな反響を頂いた。



2022

オンラインにてイギリスに おける自然農法の活動紹介

2021年に引き続きコロナ禍のため、オンライン参加。イギリスにおける自然農法の活動を紹介し、この会議をきっかけにオンラインの自然農法ラーニングプログラムに多くの方が参加。新たな地域での自然農法の活動の展開が始まった。

2023

“自家採種”をテーマにセッション オープニングにて3度目の太鼓演奏

コロナが収束し、3年ぶりに対面での会議に参加。ハドソンバレー・シード・カンパニーのK・グリーン氏をパネリストとして迎え、種に関するセッションを行った。自家採種による生物多様性の保全と作物の耐久力向上が、健康的な食生活の促進にもつながること、自家採種の重要性を発信。恒例のオープニングでの太鼓演奏も行い、大変な盛り上がりとなった。

2024

“人と地球の健康のために自然界の スピリチュアルな側面に触れる” をテーマにセッション

これまでさまざまなアプローチでShumeiのフィロソフィーを伝えてきたが、サティシュ・クマール氏（イギリスの思想家）をはじめとするパネリストと共に、秀明自然農法の根底にある精神的側面を強く発信。その結果、予想以上の反響を頂き、見えなもののへの意識を高める重要性を語る時機が来たことを実感する画期的なセッションとなった。



＜プレイベント＞ Listening to the Land—大地の声を聴く

本会議の前日である1月8日、「Listening to the Land — 大地の声を聴く」というプレイベントが CoFSA と ORFC の共同主催で行われました。「大地の声を聴く」という題名にある通り、人間中心主義から脱却し、それぞれの土地の精神性に基づき、自然と調和する食と農の未来を目指していくことが重要なテーマとして取り上げられました。午前と午後のパネルディスカッションに加え、イギリス・ウェールズ地域の五穀豊穡を願う伝統的な踊りや音楽も披露されました。

午前のディスカッションは、CoFSA のメンバーをパネリストとして、昨年の会議で Shumei のセッションに参加されたシャーロット・デュフォーさんをファシリテーターとして行われ、「どのように内面性や精神性を仕事に取り入れていくか」というテーマで話し合いが繰り広げられました。午後は、土と種と果実への感謝のセレモニーが行われました。それから、土地のメッセージを受け取るという瞑想^{めいそう}と話し合いを交えたセッションが行われ、最後には「もし私たちが大地の声を聴いたら、未来はどのようなになるか」というテーマでのパネルディスカッションが行われました。心を基盤とした大地との神聖なつながり、そして精神性を再び呼び起こすことで、さまざまな世界観を祝福することが最も重要なメッセージとして伝えられました。

このプレイベント全体を通して、食と農はさまざまな問題とその解決策の中核にあり、食を中心として世界の問題にアプローチしていくために私たちの意識を搾取や問題の外部化から内省に変えていくことの重要性が話されました。CoFSA は、農家のウェルビーイング（精神的・身体的な健康）や政策決定者の内面性に関する取り組みを行っています。また、CoFSA は志を共にする実践者がつながり合う場所を作ること、変化を大きくしていく役割も担っています。午前のパネルディスカッションでは Shumei のアリス・カニングハムも登壇させていただき、「秀明自然農法は、農業を精神的な実践として捉えています」という言葉には会場のほとんどの方がうなずかれ、人々の精神性の高まりを認識しました。また、その他の CoFSA メンバーから団体の取り組みが紹介され、土地の精神性を若い世代に伝えている方や、菜園を難民の人々の癒やしの場所として運営する方など、素晴らしい取り組みが多々ありました。そして、環境危機や人道危機の中にある人々の深い悲しみが世界に広がっている中でも、人々がつながり合うことで、それをどのように変化の力に変えていけるか、など精神性の示唆に富んだ話し合いが行われました。



左：CoFSA 発起人のアンドリュー・ボバーニックさん
右：昨年 Shumei のセッションにパネリストとして参加された CoFSA のシャーロット・デュフォーさん（左端）



コンシャス・フード・システムズ・アライアンス
(CoFSA)

CoFSAはUNDP（国連開発計画）により招集された、食品、農業、意識の高い実践者の運動であり共通の目標に向かって団結した連盟です。食と農のシステムの枠を超えて、世界の食糧システムに組織的な変化と再生をもたらすという、人々の内面性と意識の発展を支援する目的の下に活動しています。



午前のパネルディスカッションの様子（奥列右から2人目がシャーロット・デュフォーさん、4人目がアリス・カニングハム）

Shumeiは、CoFSA結成当時からメンバーの一員としてオンラインイベントへの参加、秀明自然農法の活動の紹介を行い、ケーススタディー、教育プログラムなど多岐にわたる活動を他団体とも協力し行っています。昨年は、ORFCでのShumeiのセッションにおけるコラボレーションも実現しました。

ー会議を振り返ってー

今回のORFCでは、農業は単なる食糧生産の手段ではなく、私たち人間が自然との精神的なつながりを持ち、自然から学ぶ生き方にシフトするために必要不可欠なものであることを多くの参加者や団体が理解していました。これまでのORFCへの参加を通し、Shumeiは自然農法や芸術活動を通してさまざまな角度から精神性を発信してきました。その活動が、今回のブース出展を通して一人ひとりの参加者にShumeiの精神性と活動を包括的に伝える機会につながり、多くの共感を得ることができました。人々の価値観と生き方が自然と調和し

たものに変化していくことが、これから持続可能で再生的な食と農業の未来を実現するに当たって、非常に重要になってきています。今回は、精神性を基盤として自然と共生する農業が食糧生産の新しいスタンダードになっていく未来を垣間見ることができた有意義な会議となりました。Shumeiは、私たちのビジョンに共感する協力者により一層連携し、一人でも多くの方々が自然と調和した生き方に目覚めて行動することができるよう、国際社会に向けて秀明自然農法とその根底にある精神性を発信していきます。

会議は、農家の努力を讃える歌を参加者全員で歌って締めくくられた





東部州シンダ地区の圃場と農民

秀明自然農法で築き上げた「絆」 危機を乗り越え、20年の節目に向けて

NADPZ (ザンビア自然農法開発計画) 代表 バーバラ・ハチプカ・バンダ

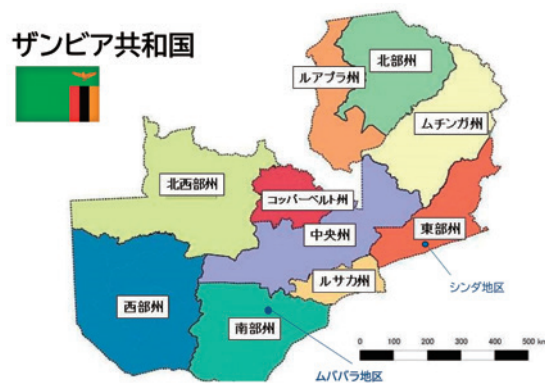
新たな地域で根付く秀明自然農法

秀明自然農法は、持続可能な農業を目指す NADPZ の農家やその周辺のコミュニティにとって希望の光となっています。昨年、私たちは東部州と中央州に活動を広げ、自然農法の持つ力を積極的に紹介しました。この活動は、主都ルサカで開催された政府主催のイベントでの、自然農法を実践する女性たちの感動的な証言から始まりました。彼女たちの言葉に心を動かされた地域の女性クラブは、自然農法を取り入れることに強い関心を持ちました。カワララ村やムンブワ地域協会などのグループの代表者たちは、自然農法が地域にどのような変化をもたらすのかを実際に確認するため、南部州のムババラ自然農法プロジェクトサイトを訪れました。そこで、彼らは自然農法が女性やそのコミュニティに与える影響を目の当たりにしました。NADPZ のトレーニングチームは、すぐにカワララ村やムンブワのグループを訪れ、自然農法を始めるために必要な知識とスキルを提供しました。さらに、各メンバーには Shumei の支援を受けたムババラ女性農民組合の熱心なメンバーが育てた 5kg の自然農法の在来種子が寄贈されました。



バーバラ・ハチプカ・バンダ

NADPZ (ザンビア自然農法開発計画) 代表



気候変動・干ばつの危機に見舞われ 秀明自然農法が希望の光

2024 年、ザンビアは深刻な干ばつに見舞われ、国中の畑が壊滅的な被害を受けました。ザンビア大統領の緊急食糧支援の訴えは、2023 年から 2024 年の農業シーズンで困難に直面した農家たちの苦しみを反映するものでした。そんな中、東部州シンダ地区など一部の地域では、幸いにも少量の雨が降ったことで収穫を得ることができ、自然農法の在来種が守られました。それは他の地域にとって希望の光とも言えます。未来を見据えて収穫された種子は慎重に集められ、50kg の自然農法の種をチパタ地区からルサカ州へ輸送し、4 つの主要な自然農法センターに配布されました。これらのセンターは、130 軒の自然農法デモンストレーション農家に種子を届けます。2024 年から 2025 年の雨季に向けて種をまくことで、過去 20 年間守ってきた自然農法の種子庫を再生し、拡大するための重要な一歩を踏み出します。この取り組みは、私たちの農業コミュニティがどれほど密接に結びついているかを示しています。東部州で守られた自然農法の種をプロジェクトサイトであるムババラへ戻し、団結することで進歩を遂げています。まかれた種一つひとつが、より持続可能で希望に満

ちた未来への懸け橋となるのです。

中央州での不作を受けて、ムンブワ地域協会は代替的な収入源を探す努力をしています。ザンビアの農業シーズンは 11 月から 4 月の 6 ヶ月間に限られているため、農家は年間を通して家族を養うために、ガーデニングや野菜栽培、裁縫、ヤギの飼育プロジェクトなどさまざまな方法で収入を得る試みを行っています。地元のヤギは、厳しい気候に耐性があり、低品質の飼料でも育ちやすく、一般的な病気にも強い特性があるため、特に好まれています。これに加えて、ヤギの飼育は農家に肉や乳製品を提供し、困難な時期における食糧安全保障や収入の安定を助けます。これらの取り組みは、収入を補完するだけでなく、代替的な食糧供給源を確立する役割も果たしています。



東部州で守られた貴重な秀明自然農法の種を他の地域へ輸送



ヤギの飼育プロジェクト



農民たちを結束させた自然農法会議

2024 年 8 月 14 日から 16 日まで、自然農法会議が開催され、ムババラの 8 つの農民組合から農家たちが集まりました。会議のテーマは「レジリエンス (回復力)」「知識共有」「進行中の干ばつへの解決策」でした。200 人の農家 (ベテラン 100 人と新メンバー 100 人) が集まり、自然農法の技術を共有し、国中に影響を与えている深刻な干ばつへの対策を議論しました。川床が干上がり、井戸も使えなくなり、水不足で作物の生育は大変厳しい状態です。この困難な状況により、無数の家族が飢餓に直面しており、緊急の対策が必要とされています。そのような状況の中でも、自然農法を実践する農家たちは知識を共有し、地域社会の食糧安全保障を守る決意を強く示しました。会議では、自然農法のリーダーや栽培に成功したデモンストレーション農家たちが新メンバーを訓練し、20 年間にわたって培った自然農法の知恵を紹介しました。また、

農家たちはたとえ少量であっても貴重な自然農法の種を交換し合い、困難の中でも協力し合いました。このイベントは農業だけでなく、地域の文化や伝統を披露する場でもあります。農家たちは一緒にキャンプをし、歌やダンス、料理を楽しみながら、持続可能な未来に向けて団結と希望を育んでいました。現在、ザンビアは深刻な危機に直面しています。何百万もの家族が、気候変動によって悪化した壊滅的な干ばつにより、飢餓、栄養不良、そして深刻な水不足と闘っています。多くの農家にとって、次の収穫は遠い未来の話で、まだ 1 年以上もの不確実な時間が残されています。しかし、この苦しみの中でも希望は失われていません。NADPZ は、Shumei と共に、ザンビアの自然農法農家を支援するため、200 人の農家にそれぞれ 5kg の救援トウモロコシを提供しました。小さな支援ではありますが、これからの厳しい時期を乗り越えるための大きな第一歩です。



自然農法会議での農民たちの集まり



救援トウモロコシを受け取る農民たち

困難の中にも明るい未来が

2024年10月に、KTTC（カベタ職業訓練センター）で初めての卒業式が行われました。1年間にわたり裁縫や大工の技術を学んだ学生たちは、8月に最終試験を受けました。このセンターはザンビア政府の認定を受け、TEVETA（技術教育職業訓練権威）によって公式に認められています。このパートナーシップのおかげで、KTTCの学生たちは自分たちが選んだ分野での証明書を誇り高く受け取ることができました。卒業式では、アラン・今井（NADPZの発足から現在に至るまでプロジェクトのサポートに従事しているShumeiの理事）や国会議員、チーフの代表が出席し、KTTCの正式な開所式を行いました。来賓たちは学生たちの1年間の努力と献身を示す作品を鑑賞しました。リーダーと教師たちは、センターの将来の成長と成功を支えることを誓い、職業教育がザンビアの若者に与える影響について力説しました。記念すべき卒業式を祝うために、学

生たちは自分たちで卒業式の服を作りダンスを披露しました。親たちは子どもたちの成果をたたえるために贈り物を持参し共に喜びました。この卒業式はKTTCにとって画期的な出来事であり、教育とコミュニティのサポートの力を示すものでした。センターの設立がこれからも多くの若者の人生を変え、明るい未来への希望を与え続けることでしょう。



救援トウモロコシ



手作りの制服を着た卒業生とアラン・今井（中央）



KTTC の正式な開所式



学生たちが作製した家具



KTTC の教室と学生たち（男子は大工、女子は裁縫のクラスに分かれて授業を行っている）

一年を振り返り来期に向けて

今年を振り返ると、私たちを支えたのは逆境に負けない精神と希望でした。2023 年から 2024 年にかけて、ザンビアは深刻な干ばつに見舞われましたが、農民やコミュニティの絆、Shumei の支援もあり危機を乗り越えることができました。私たちは新たな目標に向かって進み、食料源の多様化や耐久性を高める取り組みを行いました。これらの活動は非常時にも効果を発揮しました。また、KTTC は新しい教室を開設し、最大の生徒数を迎えました。裁縫クラスは人気で、今後はクッキングクラスや生徒たちが運営するショップも拡大予定です。自然農法は干ばつ時期に重要な役割を果たし、私たちは Shumei と共に持続可能な農業を推進しています。東部州では干ばつの中でも幸い降雨があったことで無事収穫が得られ、自家採種が続けられています。緊急事態に対し、8 月には自然農法会議が開催され、200 人の農家が集まって知識を交換し、干ばつに備えました。この団結の精神は私たちの活動の根本的な理念として今後も大切にしていきます。今年の KTTC の卒業式も特別で、学生たちは初めて証明書を手に入れました。私たちは希望と結束を持ち続け、ザンビアの未来を共に創り続けます。



農民から歓迎を受けるアラン・今井



トウモロコシの成長の様子



2004年 プロジェクト発足時のアラン・今井と
バーバラ・ハチプカ・バンダ



2004年 初のザンビア訪問

20周年を迎えるにあたり

ザンビアプロジェクトが始まり、早くも20年が経とうとしています。振り返ると、この20年間でプロジェクトは確実に大きく成長しました。その中で多くの試練もありましたが、それらの経験が私の決意を強めてくれました。しかし、何よりも私を勇気づけてくれたのは、私たちのコミュニティの不屈の精神です。困難があっても、生活文化を守り、繁栄させようとするその決意に心を動かされます。2025年、プロジェクトは20周年を迎え、自然農法ショーにShumeiの青年たちをお迎えできることを大変うれしく思います。このイベントは、単なる自然農法のショーにとどまらず、文化、回復力、そしてコミュニティの変革力をたたえ合う場です。ここではザンビアの豊かな伝統や風習を体験することができます。青年たちが帰るとき、ザンビアのエネルギーを少しでも持ち帰っていただけることを願っています。私たちは共に、次世代が自然と調和して生きる力を育む未来を築いています。私たちと共に歩んでくださった皆さま、そしてこのプロジェクトに関わった全ての方々に感謝の気持ちを伝えます。共にこの道を育て、持続可能な形で繁栄する未来へと進んでいきましょう。

バーバラ・ハチプカ・バンダ
プロジェクトコーディネーター



2015年 青年の研修 (ザンビアプロジェクト10周年)



2015年 ペンバ小学校オープニングセレモニー



2018年 青年の研修

ザンビアプロジェクト20周年を迎える
本年も人材育成を目的に青年の研修が行
われます。新たな展開が楽しみです。
2025年度の報告もご期待ください！

10.27

in Nara



Green
Life
Food
Festa

Be Natural

～明日の食べるを考えよう～

2024

11.9

in Nagoya

結

～Shall we try to ♡?～



健康で持続可能なライフスタイルを考えよう

2024年、学生ボランティア団体WCO^(※)が“健康で持続可能なライフスタイル”を提案するイベント、Green Life Food Festaが奈良と名古屋で開催されました。2018年に滋賀で始まったこのプロジェクトがコロナ禍を乗り越え、年々新たな展開を見せています。

GLFF in Nara

10月27日、奈良県山辺郡山添村のふるさとセンターにて開催されました。人口の50%以上を高齢者が占める限界集落であるこの村で生まれ育った青年女性を中心に今回の企画が始まりました。彼女は、祖父が遺した古民家を改装し、無肥料・無農薬の作物を中心とした食事を提供するカフェを開業。交通機関も少ない田舎のカフェにもかかわらず、SNSを通じて多くの人々が訪れ、その野菜のおいしさに感動し、リピーターも増えています。そんな中、山添村は地域活性化を目指し「オーガニックビレッジ宣言」を打ち出しました。これは、農林水産省が提唱する、有機農業の生産から消費までを地域ぐるみで取り組む市町村を目指した事業であり、その先駆けとしてこのGreen Life Food Festaが開催されました。つまり、初の試みとなる農村での開催は、行政を巻き込んだ村おこしイベントへと展開したのです。参加者が自然栽培や有機栽培の重要性を知り、食を通じてその価値を実感してもらうことを目的に、“Be Natural ～明日の食べるを考えよう～”というテーマを掲げ、学生や若年層を中心に企画されました。当日の来場者数は約1000名に達し、スタッフ側は奈良県をはじめ、京都府、愛知県、大阪府、石川県など各地から集まった、総勢100名以上の高校生や大学生を中心に運営されました。地域の方々からは、イベントの規模やスタッフの熱意、そしてそのコンセプトに驚きと喜びの声が上がり、「来年もぜひ開催してほしい」という期待が寄せられました。

GLFF in Nagoya

翌月、11月9日には愛知県名古屋市の中心部に立つ中部電力ミライタワーの麓、久屋大通公園シバフヒロバで開催されました。名古屋での開催は前年に続き2回目となり、前回の実行委員会を発足した青年女性は、岐阜県恵那市にある種貴（くさき）ファームで無肥料・無農薬の農業を営み、先輩から受け継いだ自然な種を守る活動を行っています。そして、その畑にフェスタの実行委員を招き、土に触れる体験や作物を味わう合宿を通じてチームの絆を深めてきました。そして、彼女の熱い想いを受け継いだメンバーによる新たな体制で、今回の企画が進行しました。このイベントを通して人と人が出会い、感化し合う場になってほしいという想いから“結（ゆい）～shall we try to♡?～”というテーマを掲げ、初めてクラウドファンディングを活用して、より幅広い支援者を募り運営されました。当日の来場者数は2000名を超え、飲食店以外にも参加型アートや種のアクセサリ作り、平飼いで育てられたひよこの触れ合いスペース、自然栽培の種がもらえるスタンプラリーやキッズスペースなど多彩な企画が親子連れの来場者を楽しませ、会場全体が学びと活気に満ちあふれていました。

若者の新しいアイデアによって各地で展開しているこのイベントは、生産者と消費者をつなぐ大切な役割を担っていることが感じられます。京都、東京、奈良、名古屋、広島など、全国各地で企画構想が進行中です。「グリーンライフ」という生き方に共感する人々を巻き込み、今後どのような展開を見せるのか、ますます注目が集まります。

※WCO（World Citizen Organization）2010年に設立。世界平和に対する熱い想いを形にし、さまざまな個人、団体の方々と協力し合い持続可能な社会づくりに貢献していくことを目的として活動する関西の大学生を中心とした団体。
<https://world-citizen-org.jimdofree.com/>





Schedule 2025

- ① GLFF in Kyoto**
3.16 sun
@東本願寺前市民緑地 お東さん広場
- ② GLFF in Nara**
10.26 sun
@山添村ふるさとセンター
- ③ GLFF in Nagoya**
11.9 sun
@久屋大通公園 シバフヒロバ
- ④ GLFF in Hiroshima**
11.24 mon
@県立広島産業会館 東展示場

Website



Instagram



詳しい情報は
QR コードから



NPO法人 秀明インターナショナル

〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代353-1

TEL:0748-82-3140 FAX:0748-82-3143

E-mail : info@nposhumei.or.jp

<https://www.nposhumei.or.jp>



2025年4月1日発行